

《目的》 本研究の目的は、家政学では、最も早い時期から発展し、家政学においては先駆者的な立場にあるアメリカ家政学が、時系列をおってどのような変貌をみせてきたのかを明らかにし、それを背景にして、アメリカ家政学の本質を探求するところにある。

《方法》 本研究の研究対象は、Journal of Home Economics, Home Economics Research Journalとし、これらに掲載された研究論文・論文を領域分類し、その分類領域の構成比・件数の推移を量的に分析する。さらに、家政学に関する定義を時系列にそっていき、家政学の歴史的変容を明らかにするとともにアメリカ家政学の本質について考究する。

《結果》 量的分析の結果によると、アメリカ家政学はまず、食物、被服といった「直接的な物的環境」に関する領域の自然科学的分析に集中していたが、その後、家庭管理、家族関係といった「社会的存在としての人間の本質」が研究対象とされるようになり、特に現在は、「関係の研究」にその発展がうかがえるといえよう。

このような歴史をみると、家政学の本質は、レイクブラシッド会議で定義されたなかに示されていると思われる。。すなわち、この「人間の直接的な物的環境」と「社会的な存在としての人間の本質」と「この二つの要素の関係」の凝縮された事実・現象は、「家族の生活」、「家庭生活」であるために、家政学は、これらを核として発展している。その意味で本質は変わらず、研究対象は「直接的な物的環境」、「社会的存在としての人間の本質」と研究が進み、当初定義された「二つの要素の関係」の研究がなされるようになった。その意味において、アメリカ家政学は成熟の時期を迎えているといえる。